



精神科医

瀬戸 睿

今から40年前の話である。その人は、16歳の時に統合失調症を発症した。症状は、幻聴、被害関係妄想であった。主治医は私である。その時の南埼玉病院は、60床で病棟は木造の平屋建て、外来は小さなこじんまりとしたものであった。

午前中の外来時に突然電話が入った。本人(当時20歳)から、「先生、今睡眠薬を50錠のんでしまった。死ぬつもりで、ごうしまししょう」とのこと。私

は「急いで救急車を呼んで当院に来てください」と伝える。「はい、わかりました」との返事。小一時間して救急車が到着、本人は意識レベルが下がり、半朦朧状態、血圧も下がっている。生命に危険があると判断し、救急隊に過量服薬の治療ができるところを探して貰う。まだ、越谷市立病院や獨協医科大学越谷病院もなかった頃で、やっと筑波大学附属病院で受け入れてくれることになる。救急車に私も同乗し彼に付き添った。車中で意識がどんどん下がる中、彼はつぶやいている。「先生、本当のところ、まだ僕は

死にたくないよ。助けてよ！」と、私は「そっだね、本当は死にたくないんだよね、必ず助かるから辛抱してね」と彼の手を握り励ました。筑波大学附属病院までの道のりは長かった。そして彼は…。

(次号に続く)

お笑いコンビの松本ハウスが11月9日(日)越谷サウンシティにやって来る。ハウス加賀谷は統合失調症である。自己の体験を踏まえて面白い漫才を披露してくれる。見に行こう。

心の悩みを募集します

お寄せ頂いたお悩みを紙面で紹介し(匿名とします)、アドバイザーいたします。

〒343-0845 越谷市南越谷4-1-53 103号 東武朝日編集部「心の悩み係」
または、FAX 048-985-2927
まで。

